



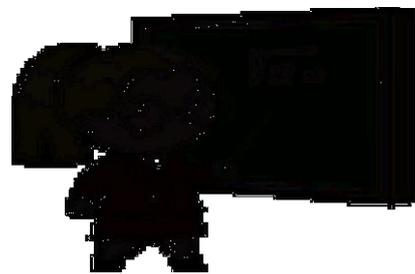
長洞元気村ニュース

平成23年 6月 4日
長洞復興 第 4 号

〆〆 糸半 〆〆

自ら考えることの大切さ！

長洞地区の活動が“スクールビジネスマネジメント「学校事務」”教育随想に取り上げられている。「原発問題は、うすうす感じていながら“安全”を前提にして見過ごしてきた我々の責任も重い。自ら考え表現することを怠った結果なのではないか。避難民がいつ戻れるか。「答え」のない状況になっている現実の中で、政府や東電をバッシングするだけでは済まない状況である。政府の情報発信力の乏しさや表現力にも問題は多いが、多くの人が簡単に「答え」を求めることもいかなものかと思う。どこかに「答え」が有るのではない。答えは創り出さなければならないのである。誤った前提に基づいて考えると、答えも間違ってしまう。」と指摘する。自ら考えること(創り出すこと)の大切さ、難しさを思いながら地方紙を検索していて、胸を突かれる記事を3月30日の河北新報、4月13日の岩手日報で見つけたというので



むらかみせいじの夢芝居

私は長洞の仮設住宅に集会所（テントも可）を作りたいと考えていた、そんな時である。4 tトラックいっぱい野菜を積んであの夢芝居の梅沢富美男が大船渡北小学校の避難所に来た。そもそも芝居小屋はテントである、一か八か言ってみた。「集会所用のテントを世話していただけないか」と、「テントを世話できる仲間がいない。この野菜もやっとの事で手に入れた。」と言うのだった。テントを諦め野菜を狙う。「私も避難所生活をしているがこの野菜をいただくことはできないか。」と聞く。「被災者のために持ってきたのですから」と言った。断られたようにも思えたが、私も被災者である。私のために持って来た野菜なんだと自分に言い聞かせて、妻に電話し軽トラックを持ってきてもらった。軽トラ1台分の野菜はその日、長洞の各家庭に配られることとなったのである。まさに夢芝居である。

ある。長洞元気学校が立ち上げられ、その学舎では保護者や高校生も「先生」として参加し、遠足も実施していた。「答え」が見当たらない絶望的な事態の中で「答え」を自ら創り出していく。自ら考え、判断し、表現していく。素晴らしい実践である。震災のような「想定外」の状況の中でこそ求められる生きる力であろう。と云うのだった。

まとめたつもりだが浅学非才にて間違っていたらご容赦願いたい。

長洞と仮設研

どのようにつながったか

仮設市街地研究会 江田隆三

皆さんこんにちは。仮設研のご紹介となぜ、私たちが長洞集落にかかわるようになったかをお話します。

仮設市街地研究会は主に10名ほどのまちづくり専門家、大学教員の「クラブ活動」のような会です。会議は、夕方に始まり、そのまま飲み会に流れるというのが通常です。ただし、その活動は

11年目になりますし、「提言！仮設市街地」を3年前に出版するなど実力は東京で一番を自負しています。

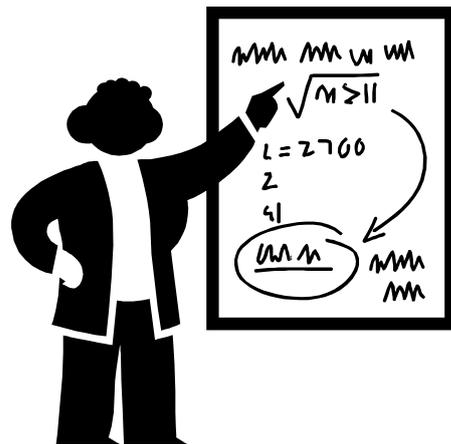
3月11日の地震は東京でも始めて経験するような揺れで、社内の書棚を押さえながら、一瞬、自分も床が崩れるビル倒壊でおだぶつかと思ったぐらいでした。その後、私は4時間半かかりましたが、歩いて帰宅しました。

仮設研では、23日に打ち合わせを行い、濱田さん、原さんを中心に緊急提言の文案を練り始め25日に被災地に郵送しました。その次の行動計画は岩手に縁がある私が担当して、なにしろ現地に行ってみるため、インターネットなどで情報を集め始めました。ガソリン不足も解消する見込みの4月9・10日に狙いを定め、車で東京から三陸1500kmの踏査を計画しておりました。

ちょうど、2日土曜日の朝に、いつものように新聞、テレビをみていると、新潟県山古志村の青木勝さんがでてきて、地域の力で奮闘中とコメントしていました。なにになと見ていると、陸前高田市長洞集落が紹介されている。ここだと思い、メモをとり、調べてみると朝日新聞でも紹介されていたのを知りました。濱田・森反・原と同行メンバーも確定し、大船渡では寺に、遠野では原さんの知人の紹介で宿を確保できました。

7日19時吉祥寺に集合すると、NHKの車が同行すると始めて知りました。高速道路は順調とおもいきや、23時半過ぎに福島県国見SAで余震に直撃し、高速道は点検のため閉鎖。一般道を走ることになり、町は停電で信号は消えている中、暗い道をひた走り仙台の町をぬけました。8日は盛岡から三陸海岸にむかい田野畑村島越集落から国道45号を南下し、むごい被災地を見ることになりました。あまりの被害に呆然でした。田老、宮古、山田、大槌、釜石から大船渡に入り、安養寺で食事中にようやく電気が回復し、ほっとしたしだいです。

翌、9日雨の中、長洞集落で木を伐採する皆さんに始めてお会いしました。仮設研で「元気村」を検討したいと押しかけ、前川会長に了承してもらったのが始まりです。



長洞太鼓の復興を

長洞太鼓組が発足してから何年だろうか。今年のお祭りにはきっとあのバチ捌きが見られたのに・・・と思うとちょっと悔しい感じがする。でも、あの震災を生き残った太鼓が和後野新屋の物置（車庫）にあったのを見て、思わずガッツポーズを取ってしまった。「河内おとこ節」「俵積み唄」「北緯50度」あの勇壮な若者の太鼓が目に浮かぶのである。若衆が必ずや復興させるであろう。そう言い聞かせていた。

長洞太鼓の音は長洞地区の人たちに勇気と希望を与える不思議な音である。若衆の奮起を促したい。

